

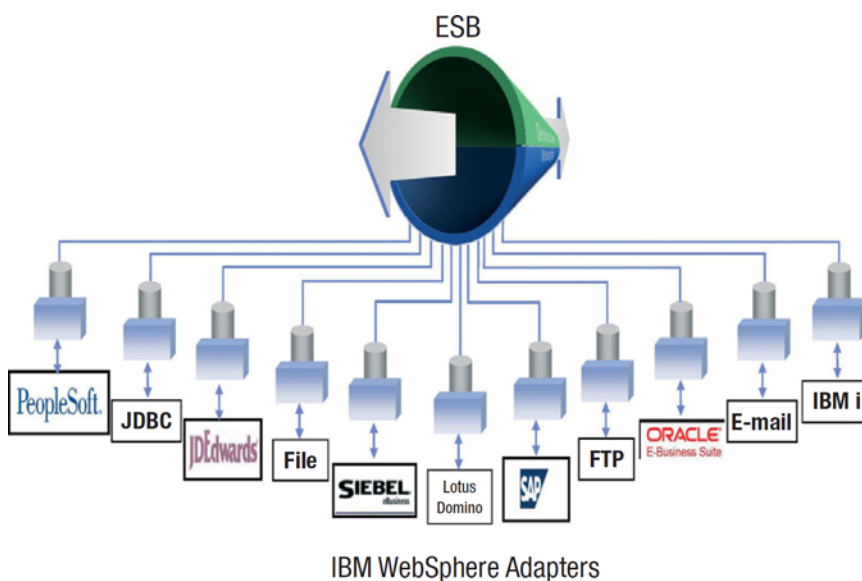
## IBM WebSphere Adapters V7.0

### ハイライト

- **J2EE™ Connector Architecture (JCA) 1.5 と Enterprise Metadata Discovery (EMD) 1.2 に準拠している**ので、インターフェースを迅速に実装できます。
- **あらかじめビルドされたすぐに利用できる幅広いアダプターと、独自のアダプターを生成できるツールキットにより、迅速な実装を実現します。**
- **グラフィカルなサービス検索ツールを使用することによって、ビジネス・アプリケーションを迅速かつ簡単にサービス化できます。**
- **アプリケーション・イベントを検出、連携することで、インバウンドまたはアウトバウンドの情報フローを制御します。**
- **新しく登場した IBM WebSphere Adapter for Lotus Domino によって、より多くのアプリケーション統合が可能になります。**
- **ミッション・クリティカルで求められるサービス品質 (Quality of Service) を保つことで、データの安全性を向上します。**
- **管理とスケールアップ/スケールアウトはホスト・サーバーまたはブローカーで行います。IBM Rational® Application Developer V7.5.1 と IBM WebSphere Application Server V6.1 および V7 でサポートします。**

目まぐるしく変化する現在のビジネス環境と依然として先行きの見えない経済状況において、企業が競争力を維持し、変化する顧客のニーズに対応するためには、よりスマートな取り組みが必要です。そして、よりスマートに働くための秘訣のひとつとなるのが、ビジネス・アジリティです。すなわち、社内・社外を問わず、組織のあらゆる部署が素早く簡単にチャンスをもにし、新しい状況に対応していけるようにすることが必要です。

企業規模で使用されるミッション・クリティカルなアプリケーションから、業界特有または部署レベルで使用されるアプリケーションにいたるまで、企業は日々の業務を実にさまざまなシステムやアプリケーションに頼っています。ビジネスが成長し、企業を支えるシステムやアプリケーションの数が増えるほど、情報は瞬間に孤立し閉じ込められ、価値ある情報が他の部署では利用できなくなってしまいます。そうなれば、柔軟性を大きく欠いた企業環境が生まれ、多くの場合、ビジネス・プロセスが自動化できなくなり、またシームレスに流れなくなります。



IBM WebSphere® ソフトウェアは、SAP や Oracle、従来のレガシー・アプリケーションのようなパッケージ化されたものやそうでないものを含めた基幹業務アプリケーションの中に存在する孤立した情報を素早く確実に解放する方法を提供します。その結果、企業は、重要なアプリケーションをサービス化し、これまで利用できなかった情報を解放できるようになるため、それらの再利用を促し、初期投資回収率を向上できます。また、グラフィカル・サービス検出ツールを利用することで、標準的なアプリケーションのインターフェースを素早く作成できます。作成されたインターフェースは何度も繰り返し再利用できるため、企業はハードコードされたインターフェースの必要数を減らすことができ、それらのインターフェースに関連する保守管理費用を抑えることが可能です。これにより、アプリケーションやデータにリアルタイムで直接アクセスできるようになるため、データの保水性や、鮮度が大切な情報の質を高めることができます。さらに、アプリケーションをサービス化して情報を再利用できるようにすることで、企業は、複数のデータベースから提供されるさまざまな種類のデータを集約して、新しい複合的なビジネス・ビューやサービスをより簡単に提供できるようになります。

IBM は、あらかじめビルドされたさまざまなアプリケーション・アダプターやテクノロジー・アダプターを提供するとともに、ユーザーが独自のアダプターを作成できるようにするための開発環境もご用意しています。

### IBM WebSphere アプリケーション・アダプター

- *JD Edwards EnterpriseOne*
- *Oracle E-Business Suite*
- *PeopleSoft Enterprise*
- *SAP Software*
- *Siebel Business Applications*

### IBM WebSphere テクノロジー・アダプター

- *電子メール*
- *ファイル転送プロトコル (FTP)*
- *フラット・ファイル*
- *IBM i*
- *JDBC*
- *Lotus® Domino*

### J2EE Connector Architecture (JCA) 1.5 と Enterprise Metadata Discover (EMD) 1.2 に準拠

Java™ Connector Architecture (JCA) は、アプリケーション・コンポーネントやアプリケーション・サーバー、企業情報システムが相互に対話するための方法を標準化したものです。IBM WebSphere Adapters は、JCA に準拠して設計されており、JCA 環境のアプリケーション・サーバー (WebSphere Application Server およびサードパーティ製アプリケーション・サーバーを含む) が企業情報システムに接続し対話できるようにします。そうすることで、JCA 環境のサーバー上で実行されるアプリケーション・コンポーネントが、各種アプリケーションと接続できるようになります。

Enterprise Metadata Discovery (EMD) は、JCA アダプターがサービスやデータを標準に即して定義できるようにするための共通のアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) 仕様です。JCA 仕様を拡張した EMD に準拠するアダプターはバックエンド・アプリケーションに問い合わせし、ウィザードに従って、サービスをビジネス・オブジェクトとして表示させることを可能にします。EMD に準拠したアダプターを使用することにより、アプリケーション・インターフェースのデブロイや複雑な API レイヤーやインターフェース・テーブルのナビゲーションといったプロセスも、シンプルにすることが可能です。

### イベント・キャプチャー

IBM WebSphere JCA アダプターは、エンタープライズ・アプリケーションとさまざまなメッセージ・エンド・ポイント間の非同期のメッセージ検出をサポートしています。この重要な機能によって、単にデータベースとしての役割を果たすだけでなく、エンタープライズ・アプリケーションが「アクティブ」になるタイミングで、独自にメッセージを生成することができるようになります。この機能によって、アダプターは、アプリケーションのイベント・テーブルを監視し、重要なイベントを検出してアプリケーション・サーバーや Enterprise Service Bus またはビジネス・プロセス・マネージメント (BPM) ソフトウェアにデータを送り、その情報をさらに転送したり、何らかのアクションを起こすことができます。

これにより、システム・インテグレーターは以下のことが可能となります。

- アプリケーション間のデータを同期化する
- 重要なイベントを WebSphere Business Monitor に通知させ、複数のアプリケーションのイベントを一元管理する
- 重要なイベントを WebSphere Business Events (WBE) に通知させ、分析したり、何らかのアクションを起こさせる
- イベントを IBM WebSphere Business Monitor のデータベースに保存し、パターンや異常を分析できるようにする

### ミッション・クリティカルなサービス品質

IBM WebSphere Adapters は、JCA 仕様で定義されている各種管理規約 (ライフサイクル管理、コネクション管理、トランザクション管理、セキュリティ管理) によって、アプリケーション・インターフェースのサービス品質をかつてないレベルで保証

します。WebSphere Adapters は、ハードコードされたソリューションやお客様独自のインターフェース・ソリューションと異なり、デプロイされた Application Server や ESB 上で管理されるため、Application Server や ESB がアダプターのライフサイクルを管理したり、作業要求の制御やタスクのスケジューリングを行うことができます。つまり、これらの機能によって、セキュリティやトランザクション境界を管理したり、アプリケーションの呼び出しやデータ処理の実行・応答するための方法を標準化できるということです。データの保水性やデータの確実な連携が重要となるケースでは、IBM WebSphere Adapters が統合に最適なソリューションであることは間違いありません。

### IBM WebSphere Adapters V7.0 の新機能

- Adapter for IBM Lotus® Domino®
- WebSphere® Business Monitor および WebSphere Business Events の WebSphere Application Server (WAS) および RAD 上のアプリケーション・アダプターのサポート
- SAP、JDBC、FTP アダプターの適用事例を拡張し、生産性および簡易性を向上
- EMD ツールを強化し、反復型開発を可能に
- Oracle E-Business Suite Adapter を強化し、Oracle インターフェース・テーブルを使ったエラー処理に対応
- WebSphere Business Integration アダプターの移行ツールやオプションを追加

### ホスト・サーバーまたはブローカーによる管理とスケーリング

WebSphere アプリケーション・アダプター				
	WebSphere Message Broker	WebSphere Process Server および WebSphere ESB	WebSphere Application Server	WebSphere Transformation Extender
Adapter for SAP Software	X	X	X	X
Adapter for Oracle E-Business Suite		X	X	
Adapter for Siebel Business Applications	X	X	X	
Adapter for PeopleSoft Enterprise	X	X	X	
Adapter for JD Edwards Enterprise One		X	X	
WebSphere テクノロジー・アダプター				
	WebSphere Message Broker	WebSphere Process Server および WebSphere ESB	WebSphere Application Server	WebSphere Transformation Extender
WebSphere Adapter for JDBC		X	X	
WebSphere Adapter for FTP		X	X	X
WebSphere Adapter for Email		X	X	X
WebSphere Adapter for Flat Files		X	X	
WebSphere Adapter for IBM i		X	X	
WebSphere Adapter for Lotus Domino		X	X	

注: IBM WebSphere Business Monitor と IBM WebSphere Business Events は、WebSphere Application Server 上で利用可能なすべてのアプリケーション・アダプターに対応しています。

IBM WebSphere Adapters V7.0 は、WebSphere BPM ポートフォリオとの連携機能をより強化したものとなっています。WebSphere Application Server がサポートするアダプターは、主なエンタープライズ・アプリケーションを監視してビジネスクリティカルなイベントや情報を検出し、それらを WebSphere Business Events と WebSphere Business Monitor ソフトウェアに通知することができるようになりました。

また、バージョン 7 では、IBM Lotus Domino 用として新しいアダプターをご用意し、インテグレーション開発者が、カスタム・コードを作成する必要なく、Lotus Domino をベースとしたアプリケーションとの双方向接続を簡単に構築できるようにしました。Java Connector Architecture アダプター・フレームワークをベースに開

発された WebSphere Adapter for Lotus Domino は、検出ツールを提供するほか、Domino 文書（基本的または複雑な各種リッチ・テキストや添付ファイルを含む）を包括的にサポートしています。

その他にも、バージョン 7 では、アプリケーション・インターフェース・ソリューションの実装時間を短縮するための機能強化が行われました。従来の Enterprise Metadata Discovery ツールを強化し、ユーザーが従来のアダプター・インターフェースを簡単に編集・拡張できるようにすることで、問い合わせをその都度反映させることのできる反復型開発を可能にしました。また、SAP、JDBC、FTP アダプターにも適用事例を拡張し、開発者がインターフェースの概念設計からデプロイまでを迅速に行えるようにしました。

## 対応プラットフォーム

<b>Windows®</b>	Windows (32 ビット) <ul style="list-style-type: none"><li>• Intel® Pentium® (500 MHz 以上)</li><li>• Intel EM64T または AMD Opteron</li><li>• 最小 1 GB の物理メモリー、4 GB 推奨</li></ul> Windows (64 ビット) <ul style="list-style-type: none"><li>• AMD Opteron または Intel EM64T</li><li>• 最小 1 GB の物理メモリー、4 GB 推奨</li></ul>
<b>IBM AIX®</b>	<b>IBM AIX (32 ビット)</b> <ul style="list-style-type: none"><li>• IBM POWER® プロセッサー・ファミリー</li><li>• 最小 1 GB の物理メモリー、4 GB 推奨</li></ul> <b>IBM AIX (64 ビット)</b> <ul style="list-style-type: none"><li>• IBM POWER プロセッサー・ファミリー</li><li>• 最小 1 GB の物理メモリー、4 GB 推奨</li></ul>

<b>Solaris™</b>	<p>SPARC</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Sun Solaris オペレーティング環境と互換性のある SPARC ワークステーション (440 MHz 以上)</li> <li>• 最小 1 GB の物理メモリー、4 GB 推奨</li> </ul> <p>Solaris x64</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• AMD Opteron または Intel EM64T</li> <li>• 最小 1 GB の物理メモリー、4 GB 推奨</li> </ul>
<b>HP-UX PA-RISC</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• PA-RISC プロセッサ</li> <li>• 最小 1 GB の物理メモリー、4 GB 推奨</li> </ul>
<b>HP-UX on IA64</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Intel Itanium® 2 プロセッサ</li> <li>• 最小 1 GB の物理メモリー、4 GB 推奨</li> </ul>
<b>Linux® on x86</b>	<p><b>Linux on x86 (32 ビット)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Intel Pentium プロセッサ (500 MHz 以上)</li> <li>• Intel EM64T または AMD Opteron</li> <li>• 最小 1 GB の物理メモリー、4 GB 推奨</li> </ul> <p><b>Linux on x86 (64 ビット)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• AMD Opteron または Intel EM64T</li> <li>• 最小 1 GB の物理メモリー、4 GB 推奨</li> </ul>
<b>Linux on POWER</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IBM System i® (iSeries®): 最小 450 CPW (コマーシャル・プロセッシング・ワークロード) の Linux パーティションを有する LPAR (ロジカル・パーティショニング) をサポートする System i モデル</li> <li>• IBM POWER プロセッサ・ファミリーまたは IBM BladeCenter®</li> <li>• 最小 1 GB の物理メモリー、4 GB 推奨</li> </ul>
<b>Linux on System z®</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• System z プロセッサ</li> <li>• 最小 1 GB の物理メモリー、4 GB 推奨</li> <li>• z/OS. V1.6 以降をサポートするすべてのハードウェア</li> <li>• 最小 512 MB の物理メモリー、1 GB 推奨</li> </ul>
<b>IBM i</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IBM POWER5™ プロセッサ・ファミリー以降のすべてのシステム (プロセッシング・ユニット 1 つ以上)</li> <li>• 最小 750 MB の物理メモリー、4 GB 推奨</li> </ul>



## お問い合わせ

IBM WebSphere Adapters に関する詳細は、弊社営業担当者または IBM ビジネス・パートナーにお問い合わせいただくか、以下のサイトをご覧ください。

<http://www.ibm.com/software/jp/webspere/integration/adap/>

© Copyright IBM Corporation 2010

日本アイ・ビー・エム株式会社  
〒103-8510  
東京都中央区日本橋箱崎町 19-21

Produced in Japan  
June 2010  
All Rights Reserved

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、WebSphere は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、[www.ibm.com/legal/copytrade.shtml](http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml) をご覧ください。



Recyclable, please recycle.

WSD14082-USEN-00